

彩の歳時記

平成三十年 八月

聖霊の帰り路送る送り火のもえたちかぬる月あかりかな

正岡子規【1867～1902】

大文字焼【京都五山送り火】は、お盆に帰ってきた死者の霊を、この現し世から再びあの世に送り出すための行事。旧盆・原爆・終戦などを含む八月は「命」や「死」の存在を身近に感じる慰霊の月。それゆえ、限りある時間を大切に家族・友人・知人と自分も大切にしたいものです。形ある物は、いつかは無くなるけれど、人の記憶と同じように形ない物は心の中で永遠に生き続けるのかもしれない。そんな鎮魂の八月も中旬を過ぎる頃、風の気配にふと秋を感じ、寂寥感が過るようです。

八月の暦

葉月 葉落ち月・穂張り月：初来月

「朝山や葉月の月のきえのこり 青嵐」

一日

八朔 八月朔日

家康が江戸城に入城したとされ、江戸時代は正月に次ぐ祝日。

果物のハツサクは八朔の頃に食べられたことから。



青森ねぶた祭(2日～7日)「ラッセラー」の掛け声と共に巨大なねぶたが市内を練り歩く。秋田竿燈(3日～6日)稲穂見立ての提灯をつるした「2日」の竿を肩や腰、額に乗せて豊作を祈る。山形花笠(5日～7日)花笠太鼓の音色と華やかな山車・艶やかな衣装と花笠の群舞が見所。仙台七夕(6日～8日)吹流しや仕掛け物などを飾りつけ、その華麗さを競い合う。

六日 広島原爆忌

世界初のウラン型原子爆弾 (Little Boy) の投下による被爆者は二十五万人(死者十四万人)といわれる。昨年の一ノベル平和賞を受賞した非政府組織 (NGO)

「核兵器廃絶国際キャンペーン (ICAN)」のメダルと賞状のレプリカの一般公開が原爆資料館で始まった。展示は全国で初めてで8月6日まで。

七日 立秋【二十四節気】

原爆忌を挟む秋立つ日。魔の六日九日死者ら怯え立つ 佐藤鬼房

九日 長崎原爆忌

プルトニウム原子爆弾(ファットマン)投下により、約十五万人が死傷。

十一日 山の日

2016 (平成28) 年からの新しい祝日。「山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する。」当初、8/12を検討されたが、日航機が御巣鷹山に墜落した日のため、その前日に。

十五日 終戦の日

「戦没者を追悼し平和を祈念する日」1982年・制定。第二次世界大戦終結。政府発表は、戦死者は約212万人、空襲による死者は約20万人。平和を祈念するため「全国戦没者追悼式」が天皇皇后両陛下臨席のもと行われる。

月遅れ盆

新暦となり季節感がずれたため、ひと月遅らせたもの。

十六日 大文字焼【京都五山送り火】

お精霊さん(死者の霊)を彼岸に送る行事。

二十三日 処暑【二十四節気】

暑さも収まる頃というが。

八月の歌

夏休み

詞・曲 吉田拓郎【1946～】



1971年発表のこの曲は「ベビーブーマー」と呼ばれ、現在、七十歳前後の団塊の世代に共通する「なつやすみ」の情景を歌い共感呼んだ。専門家に託していた歌謡曲から、自身で作詞・作曲・歌唱を手掛ける「シンガーソングライター」は新しい音楽シーンを生み出した。〇〇年近い前の「なつやすみ」は、空調設備も無く学校など公共機関が暑さの為に休むため、空調設備の現在とは異なり涼を求め旅するなどゆったり過ごした時代。空調設備の普及「温暖化」など環境変化は、歌詞に見られる光景をノスタルジックなものへと。



麦わら帽子は もう消えた
たんぼの蛙は もう消えた
それでも待ってる 夏休み
姉さん先生 もういない
きれいな先生 もういない
それでも待ってる 夏休み
絵日記つけた 夏休み
花火を買った 夏休み
指折り待ってた 夏休み
畑のトンぼは どこ行った
あの時逃がしてあげたのに
ひとりで待ってた 夏休み
西瓜を食べた 夏休み
水まきした 夏休み
ひまわり 夕立 せみの声

